

令和7年度地域学校協働活動事業 実績

課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度にお ける取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)		目標等の公表先
②学校と地域 の課題	03 学校支援 ボランティア の確保・育成	基礎学力向上のため補充学習 を行っている。補充学習を受け る児童が複数おり、担任1人では、 きめ細かな指導ができないことが 課題となっている。また、支 援員のなり手が少ないことが課 題である。	令和5年度18校 令和6年度14校実施し、 令和7年度13校実施し、学校数はやや減 少しているものの、1校当たりの実施時間 数が増えている。	・地域在住の退職教員を活用するため、コ ミュニティ・スクールの学校運営協議会委員 から情報を参考にするなどして、学校長は、 情報集して学習支援員として協力してもらえ るように要請し、学習支援員の人数を前年 度より減らないようにする。 ・学習支援員1人当たり年間40時間以上配 分し、事業が充実できるようにする。	・国語や算数の勉強が好きな児 童が増える。	「当てはまる」「どちら かといえば、当ては まる」の児童の割合 (令和7年度全国学 力・学習状況調査 [児童質問紙])	国 60% 算 64%	%	国 60% 算 60%	国 57% 算 60%	02 本年度 の目標値を 下回り、取組 の工夫・改善 が求められる	・学習支援員1人当たり年間40時間以上配分できた学校に ついては、基礎学力向上のため、児童へのきめ細やかな指 導ができた一方で、学習支援員のなり手が少ないことが課 題となつて実施校が減少しているため、今後運用方法を検 討するとともに、情報収集に努める。	https://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/1001121/1061714.html
③学校と家庭 の課題	01 家庭等 における学習 習慣の定着	いろいろな環境のなかで、家庭 において学習習慣が定着して いない子供がいる。	土曜日に開催している小学校区子どもセン ター活動の体験活動と連携、調整をし、知 徳、体の調和のとれた子どもの育成に努め てきた。	土曜教室を実施することで、補充学習を校 とした子供たちの生活リズムづくりに寄与す る。	学校以外で、日常的に学習を行 う(家庭的にお学ぼうとする)児 童生徒が増える、補充学習を繰 り返すことにより、基礎学力を身 に付けることができる。	土曜教室に参加をし た子供たちのアン ケート(聞き取り)調 査結果による。(参 加した満足度)	50	%	55	50	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	学校によって、実施回数が異なり、参加の子供の数にもばらつきが見られた。ある学校では、年々参加する子供が減っている。これは、熱中症対策による中止、インフルエンザ流行による学級閉鎖、影響によるもの。回数の差、参加人数の差はあるものの、参加した子供の半数くらいは、概ね学習プログラムに熱心に取り組んでいたと実施校の教頭先生から聞いた。	https://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/1001121/1061714.html